

Withに寄付をいただいた皆さん

- 岸本 瞳
- 山本 貴栄
- 逢坂 洋子
- 中山 光子
- 細谷 崇
- 西中 優子
- 青木 幸治
- 勢山 百合子
- 平野 弥生
- 西川 雅己
- 西 準二
- 平岩 伊佐子
- 多田 有紀
- 西 真紀子
- 三木 さくら
- 佐原 美枝子
- 福永 孝雄
- 西崎 節子
- 藤田 資
- 野末 勝
- 田野 直美
- 藤田 かおり
- 小泉 登志代
- 秋澤 辰弥
- 川久保 雄介
- 田中 茂
- 塔筋 幸造
- 立川 文代
- 馬越 康弘
- 濱本 佳子
- 久世 直子
- 時岡 佑太
- 飯室 裕文
- 工藤 圭子
- 金岡 重子
- 金井塚 美根
- 山口 耕平
- 澁谷 富子
- 橋田 てつ子
- 石橋 さなえ
- 福間 則博
- 黒木 雅子
- 鶴丸 悌二
- 直田 春夫
- 三戸 俊徳
- 多胡 葉子
- 山田 忠生
- 株式会社 ナビック
- 食を考える会 食文化研究会
- 特定非営利活動法人 C.U.P
- 株式会社 奥本電気
- 一般財団法人 東洋財団
- NPO法人 水道施設整備技術協議会
- 中ゴウ社会保険労務士事務所
- 生活協同組合 コープこうべ
- IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」
- 匿名 11名

(順不同・敬称略)

※新たに入会された皆さん、寄付をいただいた皆さんは、あらためて事業報告書に掲載させていただきます



会員継続・寄付のお願い

<http://hnpo.net/support/>
 ※認定 NPO 法人への寄付は
 税制面で優遇されます。



VISION

一人ひとりがいたい姿で
 社会参加のステージへ立てる未来

MISSION

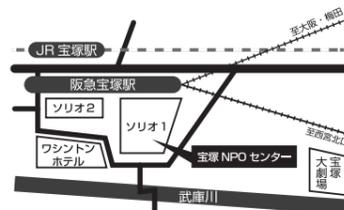
人と社会をつなぎ、
 それぞれのHAPPYを応援する

VALUE

一人ひとりのスモールステップに寄り添う
 LIFEとWORKの両面から見えた社会課題に向き合う
 社会参加の新しい形を提案する

(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
 兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1 ソリオ1-3F
 TEL : 0797-85-7766 FAX : 0797-85-7799
 E-mail : zukanpo@hnpo.net
 URL : <https://hnpo.net/>
 発行人 中山光子



TAKARAZUKA NPO CENTER NEWS

市民の手で市民活動を支える

111 このニュースの編集、発送はボランティアの
 皆さんにご協力いただいています

2023.2





シングルマザーハウス Withが完成

いろいろな事情によりひとり親世帯となった親子が、安心して生活できるような場所として、多くの方々のご協力のもと、阪急小林駅から徒歩15分のところに『シングルマザーハウス With』が完成しました。Withで暮らす間に、親子が前に進んでいけるような場所になってほしいと願っています。



なぜ Withを始めたのか

宝塚NPOセンターでは住まいに困っている方への支援として居住支援法人格を取得したことから、保証人がいないと転居が難しい事を知りました。また宝塚市から受託した「困難を抱えた女性の就労支援事業」ではコロナ禍においてハードな状況にあるシングルマザーを含む女性たちに出会いました。

母親一人で子育てするには、経済的なことだけでなく考えている以上に大変なことがたくさんあります。シングルマザーになると住んでいた家やなじんだコミュニティから離れることで仕事も環境も変えなければならないことも多くあります。その中でも住宅確保が大きいのかかり、親子はかなりのストレスを受けることとなります。

この2つの支援を通して、「宝塚NPOセンターとして何かできないか？」と考えていたところ、休眠預金を活用する「地域課題の空き家・古民家を活用した母子家庭向けハウス設立事業」の助成制度があることを知りました。「住まうことを提供するのではなく、入居者が次の自分を見つける場所を提供する」をコンセプトに助成を申請し、採択されました。

シングルマザーにとって、安価な家賃の住まいと、食べ物や物資の支援があれば、彼女らの不安は少しは和らぎ、前を向けるのではないかと思います。母子家族の「居場所」をつくることを考えたのです。

親子が笑顔で生活できる空間を考えた時、シェアハウス型ではなく、個々に独立した居室にすることにこだわりました。そんな中、限られた予算の中で出会った物件は、築50年の耐震工事が必要なアパート。工事費用は助成金だけではまかなえず、結果的に団体としての資金も負担することになりましたが、請け負っていただいた建設会社が工事代金を抑えてくださいました。また、企業や個人まで様々な方がWithに共感してくださり、多くのご寄付をいただいたことに、改めて深く感謝申し上げます。このような経緯で2022年秋、Withは完成の日を迎えることができました。



Withをめぐる様々な協力

Withの内覧会には、100名ほどのの方々にお越しいただきました。議員や行政の方、近隣のまちづくり協議会の方や住民の方などです。また淡路島在住の会員がはるばる来てくださったこともありました。たくさんの方に共感いただき、協力のご提案、ご意見、寄付をいただきました。内覧会についての新聞記事がでると、少しずつ問い合わせが増え、現在でも入居の問い合わせが続いています。中には「雇用したい」「応援したい」といったお話も何件かいただきました。

12月に最初の入居者を迎えると、コープこうべより食料や日用品の提供支援や宝塚NPOセンターによる就労支援も始まりました。その支援の中で、週2回の食糧支援時の何気ない会話からシングルマザーが必要としているのは、住居・食料などの物質的なものだけではなく、「こころの支え」がいちばん重要だったと気づかされました。現在では、入居者だけでなく地域に住まうシングルマザーにも同様のサポートをしています。



コープこうべの食料支援の一部です



宝塚市長にも内覧にきていただきました

多くの方々のご協力でWithを作ることができました。ありがとうございます。今後も、Withに関わることで出会った多様な方々が繋がり、考え、一緒に行動することで生まれる変化を支えていきたいと考えています。応援お願いいたします。



理事長 中山 光子



朝日新聞阪神版より(2022.10.26)

Withのこれから

1月には新しい入居者があり2世帯が暮らすようになりました。いまでは、月1回入居者と臨床心理士が話す時間を設けています。新しい土地での生活に不安を持っている母親の子育てや生活の悩みを聴く中で、私たちの支援では足りないところを他へつなげ、ネットワークで入居者を支える取り組みもスタートしました。そこで得た情報を職員同士で話し合い、情報の蓄積を行い、より良い仕組みを作れるように努力しています。加えて、居室に不具合があればすぐに器用な職員が対応し、安心して暮らしていただけるように努めています。

Withを中心に様々な方がパッチワークのようにつながり、支援が広がってきています。これからも、よりよい助力をすることを考えていきます。

私たちは、Withを通して、誰もが笑顔で幸せな毎日を送れるように、地域ぐるみで支え合っていける社会を目指します。そのためにはオール宝塚NPOセンター体制で取り組みつつ、いろいろな方と協力をしながら、問題解決をしていけるよう一緒に探っていきます。

どうぞ、これからもご協力よろしくお願いたします。

Instagram
始めました



WITH_NPO